特集 ことばを使う力を育てる

基本的な技能を習得するための言語活動

今井裕之（兵庫教育大学）

基礎的・基本的な技能を育てる

ことばを使う力を育てるためには，基礎的・基本的な技能の習得は欠かせません。ただし，「基本的な技能」は「ことばを使う力」の前段階の練習ではありません。むしろ「基礎的・基本的な技能でも，ことばを使うことには違いはない」と生徒たちが自覚できる言語活動となるようGETのDrillとPracticeはデザインされています。「ことばを使う」感覚がGETの活動を通して培われ，USEにつながるよう工夫した点についてご紹介します。

小学校外国語活動の学習指導要領解説では，コミュニケーション能力の素地の養成が自転車に乗ることに喩えられています。

> 自転車の構造や乗り方についての知識がどれだけあったとしても，実際に自転車に乗らなければ，自転車に乗ることができるようにはならず，乗る楽しさも経験することができないということと同じである。　（文部科学省（2008），『小学校学習指導要領解説外国語活動編』　東洋館出版）

大胆な喩えですが，自転車という最初はどう扱ってよいのかさえ分からない物を，使えるように試行を繰り返し，自分の体の一部のようになるまで取り込んでいく過程は外国語学習と似ています。小さな自転車に補助輪をつけ，見様見真似でペダルに足をかけ，大人に押してもらい，なんとかハンドルを掴んで，一緒に走るお兄さんお姉さんに懸命についていこうとする子どもでも，「自転車に乗っている」には違いありません。DrillやPracticeは補助輪のようでありたい。教師は後ろから支える大人や一緒に走る兄姉のようでありたいものです。

GETとUSEの調和

自転車の喩えを続けるならば，GETで行うDrillは，平坦な広い場所で倒れないように自転車を走らせることでしょう。ことばの意味や仕組みを理解するよう何度も発話練習をします。一方，Practiceは，自分の進みたい方向に意図的に舵を切りながら走ることです。意図的にことばを選び，伝えたい意味を考える活動と言えます。両者はねらいが異なりますが，いずれも繰り返し練習することで文法事項の定着・習得を図る点では共通しています。

Drillで言語形式に習熟し，Practiceで意味や意図を実感するという指導の流れは，一般的で有効な指導手順ですが，機械的な発話の連続に飽き，モデル文をなぞるのが精いっぱいで，そのため自己表現活動（USE）までたどり着かないなどの課題も指摘されています。DrillとPracticeをスムーズにつなぐにはどうすればよいでしょうか。

Drillの指導で模倣を活性化する

教室独自のコミュニケーションの特徴を活かすと，DrillやPracticeを少しずつ「自転車に乗っている」感覚に近づけることができます。活動形態（個人，ペア，グループ，クラス全体）が多様で，表現方法（話しことば，書きことば，身体表現，写真など視覚非言語表現）が同時・多層的な教室の特徴を活かして，どんどん相手を替えながら新鮮な気持ちで発話し合ったり，話したことを書いて確かめたり，*24NC*では繰り返しを有意義にする工夫を強化しました。

Drillは*18NC*で言えばCheck Itにあたります。Check Itは，まず「聞いてみよう」，それから「話

してみよう」と展開されていましたが，*24NC* の Drill では，「聞く」の次には「繰り返す」「言う」「書く」活動が加わり，発話の機会が多くなります。基本的な指導手順は以下の通りです。

1 Listen　イラストで意味を確認しながら英文を聞く
2 Repeat　英文を聞き，模倣して発話する
3 Say　キーワードのみを聞き，英文を再現して発話する
4 Write　英文を書き取る

イラストが補助輪になるよう配慮しつつ，「言う」では模倣より一歩進めて，意味を意識しての発話が求められます。一斉指導の後，ペア活動で相手を見て発話するだけでも意味の実感が変わります。最後は書き取りでより正確な理解を確認します。このように *18NC* よりも丁寧な指導が可能なデザインに変更されています。

Practice の指導で模倣から脱する

外国語学習において模倣の重要性は言うまでもありませんが，模倣するのは「言語」だけではないことを今一度確認すべきでしょう。自転車に乗る兄姉を真似て自転車を漕いでいる時，子どもは，倒れないように進むことを第一の目的にしているはずです。倒れない（コミュニケーションが取れる）ために，前方を見て，道の状況に合わせて操舵することを少しずつ学んでいくように，Drill で言語形式への習熟を図りつつ，Practice では，以下のように，3 技能を統合して展開することで，表現を選択し，意味・意図を伝えることを学びます。

1 Listen　ターゲット文法を含む英文を聞いて理解する
2 Speak　Listen の英文や内容を参考に対話する
3 Write　Speak で話し合った内容を書いて整理する

繰り返しターゲット文に触れながら，ことばを使う実感を得られるよう，３つの活動のトピックを揃えて一貫性のあるタスクになるよう心がけました。

BOOK 2, LESSON 2, Part ②

LESSON 2

Practice

1 Listen スミス先生が，週末に会った人たちの様子を話します。彼女たちは，それぞれ何をしていたでしょうか。イラストを選んで，（　）に記号を書き入れよう。

1. Miho（　）　2. Yuko（　）　3. Nami（　）

Ⓐ Ⓑ Ⓒ

2 Speak ペアやグループで，昨日の夜にしたことを話してみよう。まず，自分が何時に何をしていたかを話し，そのとき相手は何をしていたか，例にならって質問しよう。聞いたことをメモしよう。（→W）

例 A: At nine last night, I was taking a bath.
What were you doing at that time, Koji?
B: I was watching TV.
A: I see. You were watching TV at nine.

3 Write 例にならって，2で話した内容をまとめて書いてみよう。

例 When I was taking a bath at nine, Koji was watching TV.

Words
video game [vídiou géim]
surf [sə́:rf]
Internet [íntərnet]
phone [fóun]
dinner [dínər]
brush [brʌ́ʃ]
teeth ← tooth [tíːθ] [tuːθ]
sleep [slíːp]

Word Corner ── いろいろな動作

play video games　study　surf the Internet　talk on the phone
eat dinner　take a bath　brush my teeth　sleep

●例にならって言ってみよう。
例 The boy is playing video games.

fifteen 15

一例を挙げてみましょう。この活動では，過去進行形を用いて自分と相手が昨晩何時になにをしていたかを尋ね合います。尋ねた内容をメモしながら，聞き手は“I see. You were watching TV at nine.”と相手の発話を自分のことばで言い直します（リボイスと呼ばれます）。このような友達との相互行為を促すのも Practice のキーポイントです。

ただし，個人の思考や感情の表現を求めると，活動中２つのギャップが顕在化します。「自分の思考と表現力のギャップ」「自分の表現と相手の理解力のギャップ」です。それらのギャップを埋めるため，Practice で使える語いを Word Corner で取り上げています。Word Corner を話し手と聞き手の双方が活用し，ギャップを補えるよう配慮しました。

おわりに

文法項目への習熟と，限定的状況での言語使用が，GET で磨く基礎的・基本的な技能に違いはありません。そのためにも，「コミュニケーションを取れている実感」を支える補助輪として，Drill と Practice が一役買えたらと願うばかりです。